

ABRSM

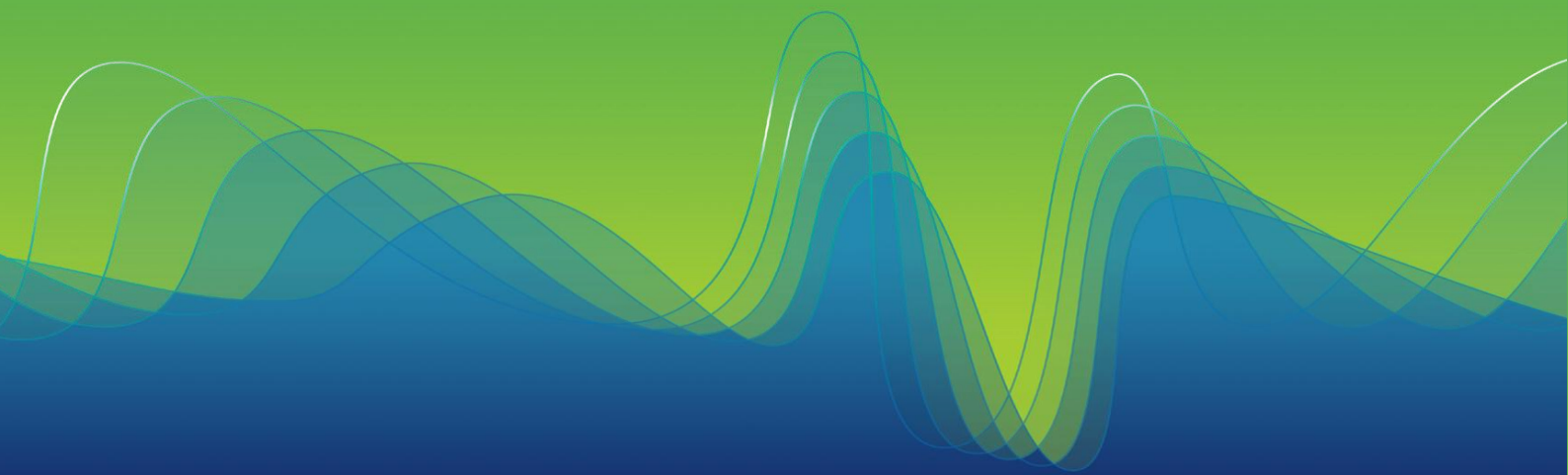
検定要項

対面実技検定



ピアノ 受検要項

2027 & 2028



2027&2028 ピアノ実技検定 受検要項

目次

1. はじめに.....	3
ABRSM について	3
資格認定に関する詳細.....	3
対面実技グレード検定について.....	4
UCAS ポイントの資格認定規定（英国）	5
資格認定規定（ヨーロッパ）	5
資格認定規定（それ以外の国）	5
2. 対面実技グレード検定	6
対面実技グレード検定の概要.....	6
シラバス.....	6
検定規定集.....	6
不正受検と不正運営.....	7
受検申込み.....	7
受検へのアクセス（特別な配慮の必要を必要とされる方）	7
多様性.....	7
検定の実際.....	7
3. ピアノ要項 2027&2028	8
はじめに	8
楽器	8
検定所要時間	8
課題曲	9
スケールとアルペジオ.....	11
初見演奏	13
オーラルテスト	16
課題曲リスト	16
オーラルテスト詳細	17

4. 評価と採点及び違反行為	23
評価の目標	23
評価の配点	23
評価の区分	23
包括的評価について	23
評価	24
違反行為	24
採点基準	24
5. 検定の後に	27
結果	27
アピールとフィードバック	27

検定プログラム用紙（提出用）

1. はじめに

ABRSM について

ABRSM は英国王立音楽検定協会(The Associated Board of the Royal Schools of Music)であり、国際的な音楽教育慈善事業です。私たちがやっている全ての中心には、音楽が人々の人生を豊かにするという信念があります。受け継いだ伝統に基づき、全世界の生徒や教師たちに対面実技及びオンライン検定、楽譜、音源、アプリ、講義などを提供しています。我々の検定は明確な目標と信頼できる一貫した評価、そして今後の学習のためのガイドを受検者たちに与えています。

私たちは、英国王立音楽大学からの協力のもと、様々な音楽的な成果を得て来た長い歴史を持っております。単純な検定機関としての役割を超え、全世界の学習者を最初の一音から支援し、音楽スキルを培い成長させていくための手助けをする先生たちの力添えとなっています。

慈善団体として、私たちは得た全ての利益を音楽教育の取り組みへの寄付や世界中の学習者や教師の支援に投じています。私たちは音楽をその様々な面において支持しており、社会における音楽教育の位置とその未来を守るために出来ることに尽力しています。

1889 年から、全世界のパートナたち、先生たちやその他の方々と共に、皆様が「音楽の旅」を始める、又は続けられるように音楽の未来を育んで来ましたが、これからも同様に励んでいく所存でございます。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体(登録番号：1926395)であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

資格範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項は 2027 年 1 月 1 日から 2028 年 12 月 31 日まで有効です。特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがあります、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

この要項の最新版は www.abrsm.org/exam にて閲覧可能です。

対面実技グレード検定について

資格認定の目的

対面実技検定資格は学習者の学びの道を支えるために、習得した実力のレベルに合わせて公式に認定を受け、評価を得られるように手助けします。対面実技検定資格は学習者が自身の楽曲演奏及びテクニック、読譜、聴音と音楽的解釈などにおけるスキルに対し報われ認められるようにします。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。

受検資格

対面実技検定受検においては年齢の制限はありませんが、グレード 6 から 8 を受験するには受検資格条件を満たす必要があり、詳細は英文 5 ページに載っています。

学習の道すじ

ABRSM の対面実技グレード検定はグレード 1 から 8 まであり、楽器によってはイニシャルグレードからはじまります。各グレードは、その要求される難易度が段階的に上がるようになっていて、グレード 6、7、8 は受検資格の事前取得が必要ですが、必ずしも下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありません。(5 ページ参照)

対面実技検定の受検者は自身の演奏スキルに集中したいと考え、音楽パフォーマンスグレード検定を受けることも出来ます。これらの検定は学習者が楽器のコントロール、音楽的な解釈、コミュニケーション、伝達など演奏に関連する重要なスキルを示すように構成されています。各グレードは段階的に上がり、それぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き演奏に必要なスキルを磨いていけるよう構成されています。音楽パフォーマンスグレード検定はさらに受験者が一定の長さ以上の持続的なプログラム全体を演奏し、音楽的なコミュニケーションをとるためのスキルについて評価され認められるように手助けします。

どちらの検定の性質も ABRSM の演奏のみの ARSM を始めとするディプロマへと進むための基盤となります。ARSM は受検者にプログラムの構成において更に多くの自由と責任を提供し、レパートリーの幅を広げながら演奏テクニックと解釈のスキルを培って行く機会を提供します。

LRSM, FRSM ディプロマは ARSM から段階的に上がったレベルです。ライブ演奏と筆記/口頭発表の要素を通して、LRSM と FRSM レベルの学習者は高レベルの音楽性、評価能力を証明し、演奏における音楽的な判断を裏付ける状況的な証拠を提供します。

ABRSM 演奏ディプロマ取得への学習者の個人的な動機に関係なく、各資格は更に上位の学び、または就職への道を開くことも出来ます。

ディプロマ資格などに関する更なる詳細は www.abrsm.org/diploma も合わせてご覧下さい。

資格規定

受検資格の事前取得

グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ・ ABRSM 音楽理論 グレード5以上
- ・ 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上
- ・ 同対面実技検定ソロのジャズ楽器 グレード5（訳註：日本では行われておりません）

代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと。

UCAS ポイントの資格認定規定（英国）

英文 5～6 ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳註：合格証に記載され、英国系大学校への進学の際、加点される。）詳細は、以下を参照願います。

www.abrsm.org/regulation.

www.ucas.com.

<https://register.ofqual.gov.uk>.

資格認定規定（ヨーロッパ）

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

資格認定規定（それ以外の国）

各国のポイントについては以下を参照願います。

www.abrsm.org/regulation

2. 対面実技グレード検定

対面実技検定の概要

検定内容は？

- 課題曲 3 曲
- スケールとアルペジオ
- 初見
- オーラルテスト

検定方法は？

- 1 対 1 の対面検定
- 評価と配点についての情報は英文 57 ページを参照

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。www.abrsm.org/examregulations

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

- **不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。
- **不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。受検者及び申込者によって不正受検が行われた場合は罰則があります。不正受検と不正運営に関する詳細は英国公式ウェブサイトにてご参照ください。www.abrsm.org/policies

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSM は、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。

www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。 info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別の配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。 www.abrsm.org/policies

多様性

ABRSMは音楽界においてさらに多様性、平等性、そして包容力を推進していくことに全力を尽くす所存であり、私たちの組織内においてもこれを成し遂げるため努めております。私たちの多様性を担当する部署及びその最新情報については英国公式サイトページをご参照ください。

www.abrsm.org/diversity-statement

検定の実際

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。

検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されますので、余分に用意する必要はありません。

検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

検定の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲や、デュエットの場合は最初に続けて受検するのが望ましいです。

楽器

ABRSM 認定会場においては、アプライト/グランドピアノが用意されています。ピアノ以外の受検者は必要な道具（例：足台 フットピン）の携帯を忘れないこと。詳しくは次ページに記載されています。

3. ピアノ要項 2027&2028

はじめに

- 課題曲レパートリーリストは、新しい曲と既存の曲を合わせたものです。
- 以前よりも多様なスタイル、伝統とジャンルを含む拡張されたリストにより、レパートリーの選択肢が広がりました。

スケールとアルペジオ、初見およびオーラルテストの内容に変更はありません。

この要項（シラバス）は 2027 年 1 月 1 日から 2028 年 12 月 31 日まで有効です。

シラバスの変更

すべての変更—変更告知、マイナーな変更点を含む—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections.

移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。 www.abrsm.org/overlap.

2027 年 12 月 31 日まで、全世界にわたり、ピアノ受検者は 2025&2026 シラバスからの課題曲、スケール課題を演奏することが可能です。但し、新旧 2 つのシラバスを同時に使用することはできません。

次回のシラバス

次回シラバスの発行は 2028 年に告知され、2029 年から有効となります。正式更新に関する告知などについては以下のサイトを随時参照のこと。 www.abrsm.org/syllabusupdates

楽器

ABRSM の公式検定会場では検定に適切なピアノを提供します。検定ではグランド・ピアノ、又はアップライト・ピアノが使用されます。事前にそのピアノを弾くことはできませんが、受検者がそのピアノに不慣れであることは承知の上で、評価されます。検定が学校や、指導者宅などにおいて行われる場合は、相応なピアノが準備されるべきです。電子ピアノが設置されている場合は、それで受検することも出来ます。但し、ピアノ音色であること、88 鍵ありピアノ同様の鍵盤タッチであること、アクション、幅、ダンパー・ペダル等がピアノと同様の機能をもつことを条件とします。

検定の前に：演奏を始める前に、スケールや課題曲のさわりを少し弾いてもよいことになっています。

それによって、椅子や足台(必ずしも会場に常備されているとは限りませんので、ご注意ください)の高さなどを調整してください。

検定所要時間

下記に記された時間はピアノ受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員がマークフォームに記入し終えるまでの大体の時間を示します。

グレード	イニシャル グレード	グレード 1	グレード 2&3	グレード 4&5	グレード 6	グレード 7	グレード 8
時間(分)	12	12	12	15	20	25	30

課題曲

この検定では、課題曲はその曲の特徴によって広く各リストにまとめられています。

- リスト A では、比較的速めの動きのある曲が選ばれ、技術的な機敏性が必要とされます。
- リスト B では、より叙情的で、表情豊かな演奏が求められます。
- リスト C では、伝統、様式、音楽的特徴の幅広い多様性を反映しています。

課題曲の組み合わせ：受検者は三つの課題曲リスト(A,B,と C)から 1 曲ずつ選曲します。* 受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません、この要項の巻末(英語版を参照)にある曲目リストに記入して提出する事もできます。

課題曲レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれております。曲の選択は、各々の受検者に適切であるものを選ぶべきであり、場合によっては先生や保護者と相談する必要があります。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは www.nspcc.org.uk/online-safety をご参照ください。

レパートリーリストはパフォーマンス グレードと共通です。両方の検定を同じグレードで受ける予定の受検者は、それぞれ違う曲を選ぶことで自身の音楽的な成長に良い影響を与えることが出来るでしょう。

デュエット：イニシャルグレードから G3 では、リストからデュエット曲を 1 曲選ぶことができます。リストにはデュエット (DUET) という表示があり、受検者が弾くパートが指定されています— *primo part* は、上のパート、*secondo part* は、下のパートです。デュエット/ソロ (DUET/SOLO) の表記があるものは、デュエットまたはソロで演奏します。

デュエットの合奏者は受検者があらかじめ手配し、演奏中のみ検定室への入室が許されます。合奏者は指導者でも可。(検定員は演奏しません) 又、録音された演奏との合奏は不可です。

楽譜と出版社：編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。ダウンロード版も可能です。詳細は英文 12 ページを参照のこと。

楽譜の解釈：記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけでなく、音の高さ、リズムと拍、音色、フレージング、パフォーマンスなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

ペダルについて：ペダルの使用、コントロールの仕方、及び、その音色や音楽の形付けへの効果は評価の対象になります。ただ、記載されているペダリングを厳密に再現するよりも、その音楽的效果の方が重要です。ペダルが音楽の最も重要な要素になっている様な曲などは避けた方が良いでしょう。なお、デュエットでは、通常下のパートがペダルを担当します。

手の大きさについて：受検者はご自身の手の大きさを考慮して曲を選択しましょう。必要に応じて和音を分散して弾いたり、ある音を省略しても音楽的に問題がなければ減点されることはありません。

繰り返し(リピート)：*da capo* と *dal segno* は、必ず守ってください。ただし、特に指示がない限り2、3小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。

Ossias: オッシア（別の演奏法）が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

譜めくり：検定中、譜めくりが困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません（次の「コピー」の項をお読みください。）G6以上で、譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者(指導者など)を同伴することも可能です。検定員はいかなる場合も譜めくりはいたしません。

コピーとダウンロード：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽器店やオンライン（ABRSM も含む；www.abrsm.org/shop）で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られています。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。www.abrsm.org/publishers

スケールとアルペジオ

暗譜：全グレードにおいて、暗譜で弾くこと。

指定範囲：受検者は、指定された範囲をカバーしていれば、鍵盤のどの音からスタートしても良いことになっています。両手の場合は1オクターヴ間隔とし、全て指定された範囲（とパターン）において上行、下行をしなければなりません。

リズム：全ての演奏は均一の音の長さで弾かれなければなりません。

パターン：アルペジオと属七の和音は他の指定のない限り基本形。全ての属7の和音は、その調の主音で終わること。3度重音奏および3度スケール奏では、下の音がその調の主音となります。6度の場合は上の音が主音になります。

アーティキュレーション：要項にスタッカート(或いはレガート、スタッカートの両方)の指示が有る場合を除き、全てレガートでの演奏となります。

ペダル：全ての演奏はペダルなしで弾かれなければなりません。

指使い：音楽的に有効であれば、どのような指使いであっても、受け入れられます。

検定の実際：イニシャルグレードでは、リストの順番通りに5つの課題全てを弾かなくてはなりません。検定員が右手、左手の指示をします。

グレード1-8においては、各課題から最低1問出題され、通常、長調から短調へと進みます。

両手、片手、アーティキュレーションの要求も全体においてバランスよく要求します。

又、検定員は、下記のポイントを指定します。

- ・ 調（短調を含む－グレード6-8の場合は旋律/和声の区別も）及び、弾き始めの音
- ・ 右手、左手、あるいは両手の区別
- ・ アーティキュレーション（検定員が指定）

参考文献について：練習用に問題集がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

速度：以下の表を一般的な例として参考にしてください。

グレード/速度									
	イニシャル	1	2	3	4	5	6	7	8
スケール (反進行、半音階、全音階を含む)	♩=54	♩=60	♩=66	♩=80	♩=100	♩=60	♩=72	♩=80	♩=88
アルペジオ (分散和音、属七、減七を含む)	♩=52	♩=58	♩=63	♩=72	♩=80	♩=44	♩=50	♩=56	♩=66
3度の並進行／6度の並進行 (半音階を含む)								♩=60	♩=60
3度のレガート重音奏								♩=46	♩=52
3度／6度間隔のスタッカート奏								♩=54	♩=54

* 全ての速度は8分音符4つのリズムに関連しています。

初見演奏

初見演奏の内容：受検者は、短い新曲を演奏します。受検者は、約 30 秒の予見時間が与えられ、その間試奏をしてもよいことになっています。

出題範囲：英文 16 ページの表では各グレードにおける要素の出題範囲が記載されています。

指使い：検定の際、楽譜にある指番号は参照用です。音楽的に有効であれば、どのような指使いでも受け入れられます。

参考文献について：練習用に初見演奏問題集が ABRSM から出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

視覚障がいの受検者：視覚障がいの受検者（全盲あるいは弱視）は、通常のテスト以外に拡大楽譜や聴覚テストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。

詳細は、www.abrsm.org/specificneeds。

初見演奏の出題範囲

以下の表は、各グレード別の出題範囲を示しています。提示された要素の範囲は、それ以降の上位のグレードにも適用されます。（訳註：例えばグレード 2 の実際の範囲は、グレード 1+2 の範囲となります。） 英文 15 ページもご覧下さい。

グレード	長さ(小節数)	拍子	調	手の位置	音楽の要素
イニシャル	4	4/4	ハ長調 ニ短調	片手 ・片手ずつ ・5 指の範囲 (主音から属音)	・英文表記参照 ・全休符 レガート、スタッカートのフレーズ <i>f</i> と <i>p</i>
	6	2/4			
1		3/4	ト、ヘ長調 イ短調	5 指の範囲	臨時記号あり(短調の場合のみ) ・英文表記参照 ・二分休符、4分休符 ・スラー、アクセント <i>mf</i> と <i>mp</i> <i>cresc.</i> 、 <i>dim.</i> 、 
2			ニ長調 ホ、ト短調	両手奏	・符点音符など英文表記参照 ・タイで結ばれた音符 <i>pp</i>
3	8 小節まで	3/8	イ、変ロ、変ホ 長調 ロ短調	5 指の範囲外	・片手での 2 重音 ・英文表記参照
4	およそ 8 小節	6/8			・弱起の曲 ・半音階の音 ・フェルマータ ・テヌート
5	8-12 小節		ホ、変イ長調 嬰ヘ、ハ短調		・和音奏(片手に最大2音まで) ・単純なシンコペーション ・終りのテンポ変化(遅くなる) <i>ff</i>
6	12-16 小節	9/8 5/8 5/4	嬰ハ、ヘ短調		・三連音符のリズム ・音部記号の変化 ・ペダルの使用
7	16-20 小節	7/8 7/4			・テンポの変化 ・オクターブ記号 ・弱音ペダルの使用
8	約 1 ページ	12/8	ロ、変ニ長調		・片手での 3 重音 ・分散和音 ・単純な装飾音 ・テンポの加速

オーラル テスト

テストの内容：詳細は英文 45－52 ページをお読みください。

参考文献について：練習用に初見演奏問題集(*Specimen Aural Tests / Aural Training Practice*) が ABRSM から出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

聴覚障がいの受検者：聴覚障がいの受検者は通常のテスト以外のテストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneeds を参照のこと。

課題曲・スケールリスト

英文記載（18～44 ページ） 参照のこと

オーラル テスト 実技検定全科目共通です。

検定では

オーラル テストは、実技検定の一部です。

オーラル テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1 オクターブ下げて歌うこともできます。

英文 46～52 ページには、各グレードの課題が詳しく述べられています。

いくつかのテストでは必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは評価に影響を与える場合もあります。

評価

ここでは個々の設問が採点されたり、ミスの数で減点されるものではなく、質問に対する受検者の反応を総括的に評価します。評価の基準については 60 ページのリストを参照のこと。

聴音例題集

オーラル テストの実例は、「聴音例題集」(*Specimen Aural Tests*) 及び、「聴音指導書」(*Aural Training in Practice*) を参考にしてください。これらは、本部のホームページや日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障がいのある受検者

聴覚障がいを持つ受検者は、通常のオーラル テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneeds. を参照のこと。

オーラル・テスト：イニシャル グレード

- A** パッセージに合わせて、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて間を置かずに拍をうってください。
- B** 2小節の3/4 或いは 4/4 拍子のフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いてそのリズムを打つこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しいリズムを打つこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する1つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション(スタッカート／レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード1

- A** 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B** 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション(スタッカート／レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子を与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション（スタカート／レガート）、②テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子**を答えてください。
- B 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子を与えられます。
- C 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション（スタカート／レガート）、テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）②調性（長調／短調）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

- A** 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）**こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。**出題は、ハ(C)、ヘ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C (i)** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください。**出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C (ii)** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つ**こと。次にその曲が**2, 3, 4のいずれの拍子であるか**を答えてください。

オーラル・テスト：グレード5

- A** 短い旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）**こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。**出題はシャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C (i)** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください。**出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C (ii)** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つ**こと。次にその曲が**2, 3, 4のいずれの拍子であるか**を答えてください。

オーラル・テスト：グレード6

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの長調又は短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。

D(i) 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。

D(ii) 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2, 3, 4のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C (i) フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。

C (ii) 上記 C1 の終止形における **2 つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音－I)、サブドミナント(下属和音－IV)、ドミナント(属和音－V)、ドミナント 7th(属七の和音－V7)、およびサブミディアン(下中和音－VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2 つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。

C (iii) 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下属調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。

D (i) 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する 2 つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

D (ii) 前の曲より抜粋されたフレーズが 2 回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が **2, 3, 4** 或いは **6/8** のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード 8

A (i) 三声のフレーズが 2 回弾かれますので、**最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。

フレーズはシャープ、フラット 3 つ以内の長調または短調で 1 オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

A (ii) 長調又は短調のフレーズが 2 回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)**に限られます。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音－I)の基本形、第 1,2 転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第 1 転回形、サブドミナント(下属和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第 1,2 転回形、ドミナント 7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます。

A (iii) 上記の終止形における **3 つの和音と転回形を答えてください**。出題は、トニック(主和音－I)の基本形、第 1,2 転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第 1 転回形、サブドミナント(下属和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第 1,2 転回形、ドミナント 7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、

次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。

- B** スコアを見て、**上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと**。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子を与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** **2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を答えてください**。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は**属調、下屬調、平行調**への転調に限られます。転調先の調を答えてもよろしい。初めに調名と主和音を与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについて**ディスカッション**します。必要に応じて検定員がヒントを与える場合もあります。

4. 評価と採点

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは、検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文 59－60 ページをご覧ください。

（訳註：英文 59-60 ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略）

評価の配点

ピアノ検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲 1	30	20%
課題曲 2	30	20%
課題曲 3	30	20%
スケールとアルペジオ	21	14%
初見演奏	21	14%
オーラル テスト	18	12%
合計	150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも 100 点（66%）を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction (秀)	130－150
Merit (優)	120－129
Pass (合格)	100－119
Below Pass (不合格)	50－99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力－理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンスグレード⇔実技検定の評点の変更は行われることはありません。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSM の裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適當である(例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない 等)
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合。

これらに対するものとしては

- 書面での警告：主に細かい違反(例：同じリストから2曲選択)に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為を ABRSM に報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。

罰則なしの違反行為に関してのアピールは受け付けられません。

評価の基準 (Marking Criteria)

54－55 ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。

採点基準

イニシャルから グレード 8 まで	課題曲				
	音符/音程	拍子/テンポ/リズム	音色	音楽的な形付け	演奏全体
Distinction 優 27-30 点	・ 極めて正確な音符/ 音程	・ 流暢 ・ ルバートの適切な使用 ・ リズムの特徴を把握	・ 明快さ ・ 音色の使い分け	・ 細部にわたる音楽的 かつ様式に合った豊か な表現	・ 自信に満ちた演奏 ・ 時代様式を生き生きと 伝えている
Merit 良 24-26 点	・ ほぼ正確な音符/ 音程	・ 持続性のある適切なテンポ ・ 良いリズム感	・ 音色のコントロール ・ 音色への配慮	・ 細部に留意し、明快な 音楽表現	・ 積極的な演奏 ・ 音楽の理解がみられる ・ 曲の特徴、様式の伝達
Pass 合格 20-23 点	・ 大体正確な音符 ・ 調性を保つに十分 な音程	・ ほど良いテンポ ・ ほぼ安定した拍感 ・ リズムの正確さ	・ 安定感 ・ 音色の意識	・ 音楽的な形付け/細部 への配慮が見られる	・ 適度な安定性/ミスから の速やかな回復 ・ 音楽的表現への配慮
Below Pass 不合格 17-19 点	・ 煩雑なミス ・ 調性に影響する音 程の不安定さ	・ 不適切なテンポ ・ 不安定なテンポ/拍感 ・ 不正確なリズム	・ 不揃い/不安定な 音色 ・ 不適切な音色	・ 音楽的な形付け/細部 への配慮が不十分	・ ミスからの回復が困難 ・ 音楽的配慮が不十分
13-16 点	・ 殆ど不正確な音符/ 音程	・ テンポが維持されない ・ 拍子感の欠如	・ 音色コントロールの 配慮が不足	・ 音楽的な形付け/細部 への配慮が殆どない	・ 演奏の中断 ・ 音楽的配慮の欠如
10-12 点	・ 極めて不正確な音 符/音程	・ テンポ/拍子感の欠如	・ 音色コントロールの 欠如	・ 音楽的な形付け/細部 への配慮が欠如	・ ミスが多く、フレーズを 弾くのがやっとの状態
0 点	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能

イニシャルから グレード 8 まで	スケール・アルペジオ	初見演奏
Distinction 優 19-21 点	- 極めて正確な音符/音程 - 流暢でリズムカル - 音楽的な演奏 - 自信をもって即弾き始める	- 流暢で正確なリズム - 正確な音符/音程/調の理解 - 音楽的に理解している - 自信をもって弾いている
Merit 良 17-18 点	- ほぼ正確な音符/音程 - ほぼ安定して流れている - 均一な音色 - 直ちに弾き始める	- 適切なテンポ、拍も安定している - ほぼ正確なリズム - ほぼ正確な音符/音程/調の理解 - ほぼ安定した演奏
Pass 合格 14-16 点	- ミスはあるが大体正確な音符/音程 - 止まらずに弾いている - ほぼ安定した音色 - 慎重な弾きはじめ	- 流れは感じられる - 大体正確な音符 - ミスはあるが、アウトラインは把握 - 慎重な演奏
Below Pass 不合格 11-13 点	- 音符/音程にミスが多い - 流れが不安定/こなせていない課題がある - 不安定な音色 - 弾き始めに時間がかかり、弾けない課題がある	- 継続性に欠ける - 音符の長さが不正確 - 音符/音程/調の理解が大まか - 不安定な演奏
7-10 点	- 不均等な音符/音程 - 極端にムラがある - 音色コントロールの欠如 - 部分的に弾けない	- 継続性なし/弾き通すのが困難 - 音符の長さの認識に欠ける - 音楽のアウトラインが欠如 - 極めて不安定な演奏
0 点	ほとんど弾けない	ほとんど弾けない

イニシャルから グレード 8 まで	オーラルテスト
Distinction 優 17-18 点	- 全て正しく答えている - 音楽的に理解している - 自信をもって即答している
Merit 良 15-16 点	- 弱点はあるが、それに優る力が顕著である - 音楽的に理解している - 安定した反応
Pass 合格 12-14 点	- 弱点はあるが、それに優る力が認められる - 反応が遅い
Below Pass 不合格 9-11 点	- 欠点が多い - 不確かな反応
6-8 点	- どのテストにおいても正確さに欠ける - 非常に遅い反応
0 点	ほとんど答えられない

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果をデジタル評価書で受け取ります。又合格者へは、資格のタイトル、楽器、グレードが記載されたデジタル合格証書が発行されます。印刷された合格証書は、少額の手数料を支払うことで入手が可能です。ABRSM はできるだけ www.abrsm.org/results のスケジュールに沿って、結果を発表するようにしておりますが、遅れる場合もあります。評価書と合格証書は、申込者に発行されます。もし受検者もアカウントを持っている場合は、申込者に結果が発表されてから7日以内に自信のアカウントでも確認できます。検定員が受検者の結果について語ったり発表したりすることはありません。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、**Result Review** を要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォーム（評価書）などについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。アピール、フィードバックの期限などの詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

Exam programme & running order

Name: _____

Subject: _____ Grade: _____

What would you like to start your exam with? _____

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

Year of syllabus: _____

List*	Number	Composer	Title

Singers only: unaccompanied traditional song: _____

Percussion (Combined) only: technical requirements on: _____

* Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion

課題曲リスト（演奏順）

Exam programme & running order

氏名 TARO KAKEHASHI

Name:

楽器 PIANO

Subject:

グレード

Grade:

5

曲とスケールどちらから始めますか？

What would you like to start your exam with?

PIECES

検定で演奏する曲の詳細を、演奏順に書いて、これを検定員又は受付に渡してください。検定が楽しく成功的でありますように！

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

シラバス年度

Year of syllabus:

2025-2026

曲リスト

番号

作曲家

曲名

List*

Number

Composer

Title

A	2	Clementi	Spiritoso(1st mvt. from Sonatina in C, Op.36 No.3)
C	1	Joe Hisaishi	The Village in May arr. Kawaura
B	3	Schubert	Waltz in B minor D.145 No. 6

声楽のみ：無伴奏曲

Singers only: unaccompanied traditional song:

打楽器（パーカッション・混合）のみ：スケール・アルペジオの楽器：

Percussion (Combined) only: technical requirements on:

スネアドラム、ティンパニ及び音程のある打楽器は記入不要

* Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion